



ベストピア Bestopia

ベストピアは小原靖夫の
個人誌です。
2013年4月号
第314号
中村健一先生記念特集号

‘聞けや愛の言葉’ 中村健一先生記念特集

プロローグ

中村健一先生が召天されて、10年の歳月が経ちましたが、私の心の中には先生が愛唱された讃美歌453番が今も響いています。

- ①きけや愛の言葉を、もろ国人らの、罪とがをのぞく 主の御言葉を、主のみことばを。
やがて時は来らん 神のみ光りの 普く世をてらす あしたは来らん。
- ②見よや救いの君を、世のため悩みて、あがないの道を、開きしイエスを、ひらきしイエスを
やがて時は来らん 神のみ光りの 普く世をてらす あしたは来らん。
- ③うたえ声を合わせて、あめつちと共に、よろこびにみつる、さかえの歌を。
やがて時は来らん 神のみ光りの 普く世をてらす あしたは来らん。

先生は物静かでいつも笑顔をとえさず穏やかな方とのイメージがありましたが、この10年間の世界の変化を体験して、先生のご生涯の歩みは極めて積極的で勇猛果敢であられたと、あらためて感じております。

教育者として導く人であられ、医師として鋭い先見性を持たれ実践され、キリスト者として常に生き生きとした希望をもたれ、活動家であり祈りの人であられました。10年経ってこの讃美歌が先生の愛唱歌であったことに深い意味があったことを学びました。

「やがて時は来らん、神のみ光りの、普く世をてらすあしたは来らん」と歌われた先生の信仰を学び希望の光を求めてここに特集させていただきます。

お声をかけさせていただいたのは2012年9月30日滝沢陽一先生の90歳のお祝いに集まった方々です。多くの方々から資料をいただき「私はあなたとともにいる」神を仰ぐ親しい交わりを感謝いたします。ご投稿頂いた順番に掲載させていただきました。

ありがとうございます。先生とお呼びすべき方々ですが本稿においては兄弟姉妹で統一させていただきます。

三和紀夫牧師

日本基督教団長野本郷教会牧師

功刀弘兄

日本基督教団甲府教会役員 くぬぎクリニック名誉院長

苅部幹央兄

日本基督教団神奈川教会役員

笹倉靖生兄

日本基督教団神奈川教会役員

1、中村家の人々

人の生き方に絶対的な影響を与えるものに①三つ子の魂百まで。②20歳までに会う人との触れ合い、③そして結婚の3つがあり、特に価値観に深くかかわるのが②であると私は考えています。

私はこの時期に3人の心の師に日本基督教団神奈川教会で出会っています。

功刀弘兄、中村健一先生、そして滝沢陽一先生です。功刀弘兄は全ての道を準備して下さった方です。中村健一先生とそのご家族は私生活に最も深く関わって下さった方です。

21歳の春、通学が日吉から三田に変わろうとしていたとき、父が膵臓癌で倒れ大学を退学しようかと迷っていた時に「私の自宅の離れが空いています。よかったら使いませんか」とお声をかけていただきました。こうして私は中村家に入れて頂き、2年後には私に代わって弟がその後6年間もお世話になりました。

ご家族の暖かい見守りの姿勢は私にジェントルマンの家庭とはどういうものなのかを教えてください、私の憧れになりました。毅然として物静かで威厳に溢れておられたお父様は第一銀行の取締役をされて激務を平然とこなされておられました。

お母様は「一切干渉しませんから、自律した生活をしなさい」と励まして下さり、風邪で寝込んでいるときにはそれとない態度で食事の差し入れをしてくださいました。

この時の「自律」と言う言葉がどんなに深い意味をもち、大切であるかを実感したのは60歳を過ぎてからでした。

1967年（昭和42年）10月10日私たちの結婚式の媒酌人をご夫妻が快くなさって下さりととても嬉しかったです。譲治の誕生後の面倒と適切なアドバイスを頂きすべてが喜びの賜として頂きました。その後ご両親が召されましたときの相続のお仕事を先生は私にさせてくださいました。そして節子夫人は先生ご自身の相続も私に任せてくださいました。感謝の言葉もありません。こうした深いお付き合いの中で代償を求めない愛の行為を私は中村家の人々から学ばせて頂きました。

2、中村健一先生の先見性

先生の形見分けに私は節子夫人から3冊の本＊をいただきました。我が家の数次にわたる大整理にも耐えて私の手元にある不思議な本です。その1冊は先生が昭和大学医学部衛生学教室で行った最終講義録です。その最終ページに公式の略歴があります。それを拝見しながら、私の学びを記します。

＊注 3冊の著書名は次の通りです。1, 2は2002年4月1日初版

- 1, 高齢化社会と福祉・医療 文部科学省認定通信教育大学用テキスト
- 2, 保険学 文部科学省認定通信教育大学用テキスト
- 3, 衛生学への思い 昭和大学医学部衛生学教室最終講義 1999年3月31日

中村健一教授略歴

昭和8（1933）年12月5日 東京に生まれる

昭和27（'52）年3月 神奈川県立横浜翠嵐高等学校卒業
昭和34（'59）年3月 慶応義塾大学医学部卒業
昭和35（'60）年3月 東京通信病院にて医師実地修練修了
同 年4月 慶応義塾大学医学部助手（衛生学・公衆衛生学教室）
昭和41（'66）年7月 ㈱富士銀行健康管理センター医長
昭和43（'68）年11月 財団法人結核予防会結核研究所附属病院（現複十字病院）
医員
昭和47（'72）年6月 原爆傷害調査委員会（ABCC）（現放射線影響研究所）客員
研究員
昭和48（'73）年8月 北里大学医学部助教授（衛生学・公衆衛生学）
昭和54（'79）年4月 高知医科大学医学部教授（環境保健医学講座衛生学教室）
昭和61（'86）年4月 防衛医科大学校教授（公衆衛生学講座）
平成元（'89）年10月 昭和大学医学部教授（衛生学教室）
現在に至る
（この間、平成8年4月～10年3月 同大学図書館長）

免許・資格

昭和35年6月 第28回医師国家試験合格（医籍登録番号：第172610号）
昭和40年9月 医学博士の学位授与
主論文題名「気道抵抗からみた粒径の異なるエアロゾル及び化学性状の異なる刺激性ガスの相互作用」
（慶応義塾大学乙第107号）
昭和50年3月 労働衛生コンサルタント試験（保健衛生）合格
（登録番号：保第96号）

主な所属学会

日本衛生学会（評議員）	日本病院管理学会（評議員）
日本産業衛生学会（評議員）	日本産業精神保健学会（監事）
日本公衆衛生学会（編集委員長）	全国産業健康管理研究会（幹事）
日本民族衛生学会（評議員）	健康開発科学研究会（理事）

(39)

平成11年3月 昭和大学医学部教授を定年退職
平成11年4月 古河電気工業株式会社総括産業医、昭和大学医学部客員教授
平成14年4月 人間総合科学大学教授（以上補追）

①生き生きとした希望を仰いで 鋭い先見性

先生の鋭い先見性はこの聖句に支えられていたように感じています。

「わたしたちの主イエス・キリストの父である神が、ほめたたえられますように。神は豊かな憐れみにより、わたしたちを新たに生まれさせ、死者の中からのイエス・キリストの復活によって、生き生きとした希望を与え、また、あなたがたのために天に蓄えられている、朽ちず、汚れず、しぼまない財産を受け継ぐ者としてくださいました。あなたがたは、終わりの時に現されるように準備されている救いを受けるために、神の力により、信仰によって守られています。それゆえ、あなたがたは、心から喜んでいるのです。今しばらくの間、いろいろな試練に悩まねばならないかもしれませんが、あなたがたの信仰は、その試練によって本物と証明され、火で精錬されながらも朽ちるほかない金よりはるかに尊くて、イエス・キリストが現れるときには、称賛と光栄と誉れとをもたらすのです。あなたがたは、キリストを見たことがないのに愛し、今見なくても信じており、言葉では言い尽くせないすばらしい喜びに満ちあふれています。それは、あなたがたが信仰の実りとして魂の救いを受けているからです」(ペトロの手紙1..1章3節から9節)

1960年慶應義塾大学医学部助手(衛生学・公衆衛生学教室)とあります。その当時の日本は今の中国の北京や重慶と同じような大気汚染の状況にありましたが、経済優先の時代にあったこの問題に取り組む事は「あるべき筋を離れる」ことを覚悟する勇気があることでした。(滝沢陽一先生談)。当時の私は、冷静に現実を観られて経済合理的な道を選ばれるのかと失礼ながら想像していましたが、先生は千里眼で50年先を見通し、キリスト者としての使命感であえて困難な道を選ばれたのです。今や大気汚染は原発とその使用済み核廃棄物から生じる放射性物質の脅威、PM2.5のように国境を越えて人類の存亡の危機となっています。

冷静な研究者としてエビデンスを尊重されデータの収集分析解析力にも秀でた才能は発表されている諸論文から明確に読み取れます。

もう一つ先見性で驚きましたのは1963年3月の神奈川教会教会学校報告「あゆみ第7号」の中でレジャーと教会生活と題して「やがて我が国でも週5日労働が常識となる時が来るであろう」と告げられていました。私が完全五日制で職員を募集したのは1983年でしたがそのころでも早過ぎて業界その他から激しい非難を浴びました。20年以上も前から健康で持続可能なライフスタイルを根強くあきらめることなく希望をもって訴えられていたのです。

更なる驚きは1972年(昭和47年)に原爆傷害委員会(現・放射能影響研究所)*の客員研究員となられています。

* (原子爆弾による障害の実態を詳細に調査記録するために広島原子爆弾投下の直後にアメリカが設置した機関) これは激務であったと推察しています。*

②優れた能力とバランス感覚

大学1年の秋の終わり頃先生のご自宅をお訪ねし静かな雰囲気の中で清らかな音のピアノ演奏を聞かせていただきました。演奏後は詳しく曲の説明をしてくださり、ユーモアたっぷりのお話で盛り上がりました。帰路に渡辺研兄(現在長野県北穂高在住)が中村健一先生は神奈川教会のシュバイツァー博士ですねと言われ、全員が「そうだ、そうだ」と頷きあったことが印象的でした。教会の礼拝で奏楽の担当もされておられ、又ご自分で讃美歌の編曲もなさっていたことを節子夫人からお聞きしました。その一曲は讃美歌21の385番「花彩る春を」です。これは2013年5月11日神奈川教会で行われる中村健一兄召天10年記念礼拝で聖歌隊によって歌われることになっています。(末尾に楽譜の一部を添付します)

恵まれた才能を多くお持ちにもかかわらずいつも謙虚で私は先生が怒られたところを見たことがありませんでした。アドバイスは厳しく的確でしたが、指示命令系ではなく「私はこう思う」と毅然とされた発言には威厳とバランス感覚があり納得することばかりでした

ある年、夏期学校で丹沢山に登ったとき天候が急変して霧で視界がどんどん悪くなってひとりの少女が腹痛を訴え前進出来なくなりました。私は「引き返しましょうか?」とお尋ねすると大丈夫もうすぐ両方回復するとおっしゃってその場で少し休憩を取りました。暫く少女の面倒を診られましたが、彼女の快復に合わせるかのように視界も晴れ目的地で楽しくお弁当を食べたことがあります。このリーダーとしての状況把握力は後年私が追い求めてやまなかったことで、この山の思い出は今も私の中で生きています。

他人のお世話もよくされた方ですが、過干渉になることはなく、本人の自律を促される姿勢はお母様から受け継いでおられる能力と私は感じています。

5S(整理、整頓、清掃、清潔、習慣)の能力はいくら努力しても追随できませんでした。必要なものを決められたところにきちんと収められ、必要な時には即座に取り出せるスマートさに、いつも甘えて「わからないことは中村先生にお聞きする」ことが私の習慣になっていました。

いつも親切にファイルを取り出し笑顔で応えていただきました。神奈川教会の歴史編纂にも貴重な資料提供をされておられます。(神奈川教会90年史p21)

3、中村健一先生の教会生活

①滝沢陽一先生からよく言われたことの一つが次のようなことでした。

「君たち文化系の方は信仰、聖書研究を論理的に理解しようと人間の頭でこね回しているが、中村健一先生のような理科系の方は純朴で素直な信仰をもって聖書研究をしている。これは学ぶべきことである」 今もって耳の痛い助言の一つです

中村健一先生が最初に聖書を読まれたのは1948年（昭和23年）15歳中学3年生のときであったと伺いました。当時は読む本がなくお母様が持っておられた聖書が唯一の本であったので熱心に読み、その年神奈川教会に行かれています。

翌年1949年（昭和27年）12月25日に受洗され、ジュニアチャーチで活躍され、1953年（昭和28年）9月(20歳)から教会学校教師になられ、翌年1954年には校長となられています。教会学校長を笹倉靖生兄に引き継がれたのが1972年、そして高知から戻られて1995年から2度目の校長に就任されて闘病生活の中で1997年迄、通算22年間教会学校校長の重責に奉仕されました。

先生の忠実なお働きについて当時教会学校の生徒であった影田慧子姉(旧姓 磯部)は次のようなコメントをくださいました。

「私の祖父が1924年から1925年まで神奈川教会の牧師をしていたことを気にかけていただき、毎年クリスマスイヴにはキャロリングに訪問してくださいました。そして祖母が召天後も父のためと言って私たちが神戸に引っ越すまで続けてくださいました。私も教会学校に通って中村先生の優しいご指導をいただいていたのですがそれ以上にこんなに長くそして遠くまでキャロリングを続けて下さった先生を偉大に思って尊敬しています」

教会学校長としての先生の祈りは教会学校の生徒から伝道者を世に出したいことでした。その期待に応えたのが米倉美佐男兄(1980年牧師になられ、現在札幌教会牧師)とその夫人の旧姓出水頼子姉です。同兄は5歳の時から神奈川教会幼稚科に出席され伝道者になるまで中村健一先生の薫陶を受けられた真に恵まれた方です。米倉牧師はお嬢様も牧者になられて活躍されています。(現在南遠教会、相良教会牧師) これは謙虚な中村先生が語られる数少ない自慢話の一つでした。このように先生は導く人でありました。

②教会生活にも悲しいことがありました。忘れられない事故について

同年代で教会学校に奉仕されておられた石川京子姉（旧姓 丹羽）からいただきました。1963年(昭和38年)11月9日21時40分頃に起きた国鉄鶴見事故です。

3人の兄弟姉妹が即死されました。

「翌日の日曜礼拝中に知らせが入り、中村健一先生の車でハルエ先生と私は3人で鶴見総持寺に出かけました。高橋義則君は死亡者の6番目に書いてありました。塩見せつ姉と横尾幸子姉を探すため中村先生はお棺を一つ一つ開けて顔を見ていかれました。私たちは外

で震えていました。2人の姉妹は親が見てもわからないほど変形していました。ドロドロになった洋服を見て中村健一先生が二人を確認されました。

悲痛の漂う状況での先生の使命感と勇気に信仰の深さを感じました」

この話は2012年9月30日滝沢陽一先生90歳のお祝いの会でも多くの人が語った事です。

私は高橋兄に親しくしていただいており丹沢山にも連れて行っていただきました。私はこの日、大阪に戻っておりましたが、そうでなければご一緒していました。

功刀弘兄も同様のことを自伝に書かれています。

③知られなかった闘病生活,

相模原南教会では1997年10月26日信徒伝道週間に中村健一先生に説教をお願いしました。聖書の箇所は先に引用しましたペテロの手紙第1の1章3節から12節です。

「生き生きとした希望」と題してご自分のことも明かされた感動的な説教でした。

その説教の中で、「実は私も癌にかかっています」「もう手遅れで治療のしようがない」と小声で言われたのです。

然し、お元気そうで外見からは全くわからず、先生のいつものニコニコした笑顔に変わりはありませんでしたので私は自分の聞き間違いだと思ってしばらく気になりながらも直ぐに確認しませんでした。。1ヶ月位してこのことを滝沢ハルエ夫人（2013年1月7日召天）にお尋ねすると夫人も「私も聞き間違いかと思って気にはなっています」と仰いました。それで勇気を出して確認しましたが、その時も全く平然と普段の態度を変えられる事はありませんでした。既にもう2年以上前からのことですよと言われたのです。（1995年に症状があり翌年3月告知を受けておられたことが後年わかりました）

わたしは医師だから最先端の医療を受けておられるのだらうと思い込み、治癒されることを祈っておりましたが、キリスト者として、医師として冷静にご自分の逝去時を感じとられたのでしょうか、ご自分の意志で2002年の年末に退院され、節子夫人の手厚い介護のもとですべてを受け入れ生まれ育った富士塚のこ自宅で最後迄静かに生活されました。ご自宅に戻られた時は歩行はできず車椅子の生活になられ、だんだんと伏せる時間が増えていかれました。

ご自宅での療養生活に入られてからお見舞いに参上しましたが、いつも通り笑顔で平然とされ信仰者の最後はこんなに穏やかなものだと教えられました。

最後にお持ちしたMDは操作されてる事はなかったと奥様からお聞きしました。

それほどに心身が弱っておられたにもかかわらず柔和に対応して、私の家族の事をも気遣ってくださいました。

私はその後10年経って初めて先生の最後の説教の意味を理解することができました。

そして先生の偉大さ信仰の深さと先生が私たちに一生懸命に伝えようとしたメッセージをいまここで語って頂いているかの如く新鮮な気持ちで聖句を読みながらこの原稿を書いています。

「言葉では 言い尽くせないすばらしい喜びに満ちあふれています。それは、あなたがたが信仰の実りとして魂の救いを受けているからです」

中村健一先生が私には“目覚めよ”と語ってくださっている言葉です。

4, 最後の偉業

最後の偉業は文部科学省認可通信教育(大学)のテキストを2002年4月1日に2冊完成出版されたことです。

「保険学」と「高齢化社会と福祉・医療」です。その内容は広範囲でエビデンスがたくさんあり、且つ今も新鮮な内容です。2冊の先生の書かれた「まえがき」を末尾に添付いたします。

2002年（平成14年）4月人間総合科学大学教授になられ、同校の設立に貢献され、更に病をおして教科書を作られ、授業を担当され、試験問題の作成、採点の実務を病室に持ち込まれて執務されました。

教授会には欠かさず出席され、そのための通勤はお一人では難しく、節子夫人と共に片道3時間の電車移動を時には車椅子でされ重責を誠実に果たされました。

先生の誠実さと強靱な責任感と使命感がひしひしと伝わる最後の奉職でられました。

節子夫人は自宅介護と通勤介護を平然となされ、先生の悔いのない生涯を支えてこられたその愛の深さに心うたれます。節子夫人は26年間、調停委員（最高裁判所が任命）として奉職され、現在も成年後見人の人選にかかる奉仕をなさっておられます。ご夫妻で健康と福祉の底辺を支えてこられたことを今般の訪問（2013年4月15日）で実感しました。

昭和大学医学部衛生学教室の最終講義(1999年3月4日)「衛生学への思い」の巻末資料13は次の聖句で結ばれています。

人生の年月は七十年程のものです。健やかな人が八十年を数えても、得るところは労苦と災いにすぎません。瞬く間に時は過ぎ、わたしたちは飛び去ります。

生涯の日を正しく数えるように教えてください。知恵ある心を得ることができますように
(旧約聖書 詩篇90編10節-12節)

主に望みをおく人は、新たな力を得、鷲のように翼を張って上がる。

走っても弱ることなく、歩いても疲れぬ。(旧約聖書 イザヤ書40章31節)

エピローグ

10年の節目に私は何を出すべきか、何ができるかを考え、多くの方々のアドバイスをいただいてこの特集を組ませて頂きました。

本文でも触れましたが大学1年の時に初めてご自宅でのピアノ演奏を聞せてくださった最後に讃美歌310番を弾いてくださって歌いました。

- ①静けき祈りをときはいと楽し。悩みある世より我を呼びいだし
父のおおまえに、すべての求めを、たずさえいたりて、つぶさに告げしむ。
- ②静けき祈りのときはいと楽し。さまよいいでたる、わが魂を救い
危うき道より、伴い帰りて、こころむるものの罫をのがれしむ。
- ③静けき祈りのときはいと楽し。そびゆるピスガの山の高嶺より
ふるさと眺めて、のぼりゆく日まで、なぐさめを与え、喜びを満たす。

静かな曲ですが「喜びを満たす」で終わっています。中村健一先生は真に喜びに満ちた生き生きと希望を語る祈りの人であられました。

添付資料

(1) 「高齢化社会と福祉・医療」テキスト・まえがき (2) 「保険学」テキストまえがき

ある人口集団の高齢化の状況を示す指標として、最もよく用いられる老年人口割合（65歳以上の老年人口を全人口で割ったもの、高齢化率ともいう。）が、2000（平成12）年には17.5%（人口6人に1人）に達したわが国は、もはや「高齢化社会」（aging society）ではなく、りっぱな「高齢社会」（aged society）である。予想以上の出生率低下による少子化と高齢者の死亡率低下、そして第2次大戦後数年間に生まれたいわゆる第一次ベビーブーム世代が、2010年を過ぎると続々65歳に達することによって老年人口割合はさらに増加し、2015年には人口の25%以上を占めるようになると予測されている。現在既に高齢者と呼ばれている人々はもちろん、まだその年齢に達していない人でも、ほとんどの人が両親、祖父母など肉親の生活や医療・介護の問題、あるいは自分自身の老後のことについて、さまざまな悩みや心配を抱えているのが現実である。

一方で人口の都市集中、核家族化の進行により、家族による高齢者のケア機能が急激に衰退しており、これからの高齢者は新しい生き方の選択を迫られている。

21世紀に生きる日本人にとって、高齢社会の実態とそれに伴う様々な問題への関心を深め、高齢者が健康で幸せな生活を過ごすための方策を考えてゆくことが重要であることはいうまでもない。その意味で、本教科は教養科目としてできるだけ多くの学生諸者に履修していただき、高齢者問題への理解を深めてもらうことを目的として、具体的にわかりやすい内容とすることを目指している。筆者は医学部出身であり、専攻分野が衛生学・公衆衛生学であることから、社会福祉論や福祉経済論にはあまり踏み込まず、保健医療の問題とわが国における老人福祉制度の現況を中心に述べる予定である。

【序章】では、「老い」についての筆者の意見を述べ、諸君がこの問題を考える上での導入とする。【第1章】では、統計資料を中心にして高齢社会の実態を示し、高齢者がそのQOL（生活

の質）を高めるためにどのようなニーズがあるかを考える。【第2章】で、高齢者のからだやこころの特徴、【第3章】で、高齢者がかかりやすい病気について説明し、医学的側面を中心に高齢者への理解を深めていただく。【第4章】では、わが国で、社会福祉・保障対策がどのように発展してきたかを述べ、現在の諸制度理解への足がかりとする。【第5章】では医療保障制度全般について把握していただく。【第6章】と【第7章】において、現行の老人保健医療制度および老人福祉制度の概要を述べる。さらに、【第8章】で、最近導入された介護保険制度、【第9章】で、所得保障対策の中心である年金制度についてやや詳しく説明し、実際の知識の習得を助けるつもりである。そして、【終章】において、現行制度の問題点を挙げながら、これからの高齢者対策のあり方を一緒に考えていきたい。

関連した内容をもつ教科として、「中・高齢者の心とメンタルヘルス」「保健学」「高齢者のからだ健康」などがあるが、それぞれが選択科目であることを考え、重複への考慮を払うことなく筆者の方針にもとづいて記述するつもりである。

保健学テキスト

はじめに

人にとって大切なものは、資産、能力、地位、名誉、家族などいろいろあるが、最も多くの人々が挙げるのが「健康」である。確かに健康であることが人として生活を楽しむ、社会的に活動するための必須条件である。

保健学 health science は、この健康を守り育て、病気を予防するための学問である。同じ目的をもっている学問として衛生学 hygiene がある。歴史的には衛生学のほうが古く、このような問題の全体を理論的、体系的に取り扱う学問とされている。保健学はその実面的な面を主として取り扱うが、両者は表裏一体ではっきりとした境界線を引くことは不可能である。衛生学と公衆衛生学 public health との関係も同様であり、したがって保健学と公衆衛生学もきわめて近い関係にある。

本教科は2単位であるから、広範な保健学の領域をすべて学習することはできない。しかし、高等学校での「保健」というレベルを超えて、人間科学を学ぶ大学生の専門科目として、健康についての考え、健康指標、環境保健、疫学の原理と技法、疾病の予防、健康の増進・管理、ライフステージ（乳児、小児、青年、壮年、老年、母性などの人生の各段階）における健康問題、等について学ぶことを目的としている。

筆者は長年医学部において衛生学、公衆衛生学の教育に従事し、教科書執筆の経験もあるが、この領域の教科書執筆の悩みは毎年新しい保健統計のデータが報告されることと、種々の公衆衛生に関する法規や制度がめまぐるしく制定・改廃される（特に近年は著しい）ことである。したがって、教科書は絶えざる改訂を求められる。

本教科の講義要綱作成に当たって考えたことは、保健学の原理と実際的方法を中心に学習を進め、これら理解するのに必要な最低限度の統計資料や法規・制度を紹介するのにとどめよう、ということであった。新しい統計数字や保健医療制度の動きについては、毎年発行される「国民衛生の動向」などを参考にさせていただくこととして、教科書も上記の目的に沿うようなスリムなものとすることを意図した。

この教科を履修される学生の皆さんが筆者の意図を理解し、細かい数字や法規・制度の内容を暗記するのではなく、健康の保持・増進、疾病の予防についての基本的な考え方をつかんでくださることを期待している。

2002年4月

中村 健一

次に4名の方から頂いた貴重な記念文を原文のまま掲載いたします。
この他多数のコメントを頂きました。本文にて引用させて頂きました。
有難うございます。感謝いたします。

小原靖夫

動じることの無い信仰

三和紀夫

1、私が中村健一先生と初めてお会いしたのは、先生が慶応大学医学部卒業後母校で研究者をしておられた時で、私は神学生(東京神学大学)の時でした。私の同級生である友人が多分滝沢陽一牧師からのお話で、中村先生の研究の資料提供のアルバイトのためでした。友人と一緒に大学の研究室に行って、優しい目をした温厚な先生と初めてお会いしました。「これを口にくわえてください。決して口から離さないように」と言われ、機械に接続したパイプを口にくわえました。先生が機械のスイッチを入れると、パイプから何か気体が口の中に入ってきました。息苦しくなるような気体でしたが、アルバイト料を考えると、日露戦争の時の某ラッパ兵のことを思い出しながら必死に啜っていました。体温、血圧、その他いろいろ調べられました。当時は、国内最大のニュースは各地で発生している「公害問題」でした。先生はその医学的研究に携わっておられ、私たち貧(神)学生はその研究に身体を張って少しばかり貢献させていただいたのです。その後も何度か先生の研究室に重い足を運んだものでした。

2、神奈川教会に神学生として出席するようになり、中村健一先生の教会でのご様子を身近に知るようになりました。先生はあくまでも優しく、時に毅然として、教会学校をはじめ教会の様々な業に率先してご奉仕をしておられました。それはもちろん、先生の明確な信仰から生まれた姿勢であったと思います。

先生と特に信仰上の事柄をお話ししたことはなかったと思いますが、私は「中村先生は迷いの無い信仰者」として強く印象づけられています。迷いが無いと言えば、非人間的と誤解されるかもしれませんが、先生は決してそうではなく人間性豊かで、お若い時から骨太の信仰を身に付けておられました。動じることの無い信仰と言い表したらよいでしょうか。

3、神学校を卒業し、神奈川教会ともお別れして、私の最初の任地は富山県砺波市にある出町教会でした。何年かして、多分1967年の頃、中村健一先生から、当時ネパールに医療奉仕活動をされていた岩村昇医師の講演会開催のお誘いがありました。当時、中村先生は「キリスト者医科連盟」の理事で、「キリスト者海外医療協力会」でも活動していらっしゃいました。このように、中村先生はご自分のお仕事と生活がキリスト信仰と一体的で、「動じることの無い信仰」はそこに根を張ったのだと思います。

岩村昇医師の講演会には、中村先生もお忙しい中富山まで駆けつけてくださいました。もう50年近い前のことですから、どれだけの聴衆があったのか忘れましたが、小さな町の教会としてはそれまでにない人数であったのは確かです。特に、中学生や高校生が大勢集まったことを思い出します。岩村先生のネパールの活動を映画で見ながら聞いたお話は、若い人たちの心を強くひきつけました。集まった高校生の中からその後医師や看護師になった人がいます。 現在 日本基督教団長野本郷教会牧師

中村健一先生の思い出から

功刀 弘

私の人生には思いがけない主のお導きが沢山あります。

中村先生との出会いは次の次第です。旧満州から山梨に引き揚げてきた我が家の生活のすべてを甲府教会員の祖父母・三井修策、義子は助けてくれました。さらに私どもの為に一家で上京することになりその行き先を探し回った祖母は国立と横浜に物件を絞りました。横浜は付近の道路が工事中で雑踏を極めていたので躊躇しましたが、私の日吉への通学の便を考えて反町の近くの松が丘に決めました。そこから近いメゾジスト系の神奈川教会に甲府教会から祖父母と共に転会しました。私が高校2年生、祖父は70歳でした。祖父は滝沢四郎牧師と共に家庭訪問などにお供して、教会の牧会活動にも熱心でした。私が大学に入ると祖父は私に教会学校を手伝うように言われました。その奉仕活動に参加することによって医学部の3年先輩の中村健一先生が校長先生をしている下へと入れてもらいました。大学時代とインターン生の1年間そして1963年秋に山梨県の病院に出張するまでの7年半を一緒に教会学校を担当し、最後は副校長の役を仰せつかっていました。教会学校の生徒には後に牧師となった米倉美佐男君もいました。その時の写真があります。

神奈川教会の役員もしていた祖父母は後にある事情から指路教会に転会しました。指路教会で教会学校の役など素晴らしい働きをしていた柴田節子さんを祖母が中村先生に紹介してお二人が結婚しました。その後節子夫人がフェリス女学院の同級生・原田佳津子を1964年正月、山梨に出張して間もない私を妙蓮寺のお宅に招いて引き合わせて下さいました。その年の4月に私は佳津子との婚約を決心し、10月には滝沢先生の司式で結婚しました。

その後、私ども二人は町田に住まわれている中村先生ご夫妻を訪問したことがありましたが、中村先生が高知医科大学に赴任されるなどお会い知る機会が何十年も途切れていました。中村先生のお勧めで学生時代から医学部のキリスト教青年会に属していましたがさらに日本キリスト者医科連盟（略してキ医連）にも属し、学生時代には中村先生に連れられて御殿場方面のワークキャンプにも参加しました。しかし結婚してからは山梨在住と平日開催のためにキ医連の総会には1度も出たことはありませんでした。2002年8月の夏休みに神戸の第54回キ医連総会に入会以来40余年ぶりに初めて出席しました。夏休みということもあり、また神戸に在住の次女にこの7月23日（名前はナツミ・夏海）に第2子の孫娘が生まれたのでその顔を見たくなったためです。キ医連総会にはよく出席されている中村先生にもお会いできると期待していました。初めての出席にも拘わらず名前だけ知っている多くの方々に親切にしてください、91歳になる日野原先生の講演も素晴らしいものでした。皆様よくご存じの中村先生は数年前から出席されていないことを知り、帰ってから9月には早速総会の様子を「キリスト者医科連盟総会に初めて出席して」との文書を認めて中村先生にも送りました。

10月11日付、中村先生からA4・3枚の詳しいご返事を頂きました。

初めの部分だけ引用します。「先日はキ医連総会初出席、ワールドカップ観戦などにまつわる近況を詳しくお知らせくださり、ありがとうございます。楽しく読ませていただきました。診療所を移転し、新たな思いで診療をはじめておられる様子で、大変嬉しくまた羨ましく思っています。私も元気で過ごしている、と書きたいところですが、最近前立腺癌の骨転移のためQOLが大分低下してきました」。

私ども二人はこれまでの御無沙汰を恥じ入るとともに一刻も早くお目にかかりたいと思いながらやっと11月3日にお宅に訪問することができました。お手紙で詳しい経過を承知していましたが、淡々と穏やかに話される中に先生の信仰者としての安らぎとこれまでの歩みについての悔いのない生涯を歩まれてきた自信を垣間見ることができました。

先生のお手紙の最後に「お母様もお元気なようで何よりです」と記されていましたが、母はその頃認知症が進行し一人暮らしが困難となってきました。そこで予て話し合っていた通り弟・忠夫一家が11月から同居するようになりました。中村先生を2003年になってからもお訪ねしたいと思いつつ、母の弟一家との生活が認知症の進行から限界となってきました。3月からは入院も考えなくてはならなくなり、母は4月14日に厚木の佐藤病院に入院となりました。長女の優子一家は夫の仕事で1年前からニューヨークに滞在していましたが、5月9日に一時帰国しました。この機会に母の見舞いに二人を連れていくことを計画していました。5月10日に小原さんからの電話で中村先生が9日に亡くなられたこと（享年69歳）、12日に前夜式13日午後に葬儀の予定を知らされました。娘を連れて母の見舞いに13日の午前中だけクリニックを代診の先生にお願いしてありました。クリニックの体制から葬儀に出席することは無理な状態でしたが、13日早朝に甲府を出て午前中に神奈川教会の葬儀の式場を見て坂口吉弘牧師先生に挨拶して昼には娘たちと母の見舞いに行き、夕方の診療に何とか甲府に戻って間にあいました。葬儀には家内の佳津子だけが出席しましたが、心残りがどうしても残りましたことをここにします。

しめくくりの中村先生の御忠告として記します。お手紙の中に「1995年ごろから多少尿の勢いが弱くなっていることには気がついていましたが、年のせいだろうということであまり気にしていませんでした。――前立腺癌発見のために効果的と言われるPSAの検査はまだ行われていませんでした。」とありました。ここまで書いてきてわたくしもこのところ尿の出が少し悪くなっているので少し心配になって1年ぶりにPSAの検査をしなくてはと思いたちました。3月21日に採血したところ、幸いにも数値はPSA2.5(3.7以下が正常)でした。このPSAは簡単な血液検査でわかるので前立腺癌の早期診断にとっても有効です。男性は前立腺がんが増加傾向にあり北病院の元院長も69歳で、また将棋の米長元名人も昨年12月に69歳でこの癌のために亡くなっています。この検査は中高年の男性にとっては前立腺がん予防のために必須となっています。

中村先生ご夫妻へのこれまでの御無沙汰を恥じるとともに、私どもへのまた松が丘の両親への御配慮も感謝しつつ原稿とします。

2013年4月 功刀 弘 くぬぎクリニック名誉院長



ウ
イ
ー
ン
ア
ム
シ
ユ
テ
フ
ア
ン
教
会
内
部

撮影 小原靖夫

ヒューマニズムを超えて

苅部 幹 央

中村健一先生は、私たち夫婦にいつも優しく温かく接してくださり、妻は中村先生を思い出すたびに、そのことを語っています。それだけに転勤のため高知に行かれていた間は、神奈川教会の私たちに空白の時間が流れていたような思いでした。再び神奈川教会に戻って来られた時はたいへんうれしい気持ちになりました。

そんな中村先生が2003年5月9日に召天されてから10年になります。まだ69歳で、先生が亡くなられた時の悲しみと衝撃は忘れることができません。これからも神奈川教会のために、私たち信徒の代表として活躍していただきたいと願っていました。中村先生の死は私の心に大きな穴があき、教会の良心の人を失ったように感じました。

中村先生はしばしば招聘委員としてご苦労くださいました。牧師交代の時などともすると、優しさや思いやりが感情的になりすぎて、まとまらない時があります。中村先生はそんな時でも冷静に、状況を把握し、真実にあるべき方向に導かれ、いつも全体的に捉え将来を見据えて物事を考えられていました。今、中村先生がおられたら、教会生活の中で、特に役員会や総会など、どんなに助かるかわからない、また、どのように導いてくださるだろうかと考えて、そのたびに、中村先生を失った大きさをつくづくと思います。

私には特に忘れられない二つの思い出があります。神奈川教会は滝沢陽一牧師により、昭和39年9月から「礼拝書」を用いるようになりました。その伝統的な「礼拝書」を滝沢牧師から、国語教師ということで口語訳にすることを頼まれました。あまりの任の大きさにたじろぎましたが、各教派の礼拝書などを参考にしながら作り上げました。昭和49年のクリスマス礼拝から口語訳の「礼拝書」を使い始め、そのことをいちばん喜んでくださったのが中村先生でした。その時、「日本基督教団信仰告白（使徒信条）」をどうして同時に口語訳にしてみなかったのかと聞かれました。そこまでしていいものかどうかと思い、びっくりするやらうれしいやら、有り難いと思いました。仁平恵先生と共に、「讃美歌21」の採用を推し進められた中村先生が言われたように、現在「讃美歌21」の93-4のBに「使徒信条」の口語訳が載っています。中村先生のまさに先見の明です。

もう一つは、中村先生との会話の中で、「私たちはヒューマニズムだけでは生きていけないのではないか。それを超えたところにキリスト教がある。私たちはそのキリストの愛によって生かされている。ヒューマニズムの世界にとどまっていたら真実に生きることはできない」というようなことを言われました。信仰に生きられる中村先生の人生観が伝わって来ました。私は深く納得して「そうですね」とお応えし、二人ともお互いに心が通じ合ったさわやかさと、そのあとの中村先生のあの笑顔が強く印象に残っています。

中村先生は穏やかに人の話にじっと耳を傾ける、どちらかと言うと、物静かな雰囲気

持っていましたが、積極的に行動され、私たち信徒の先頭に立たれた誇れる先輩でした。7年間の闘病生活の中でもほとんどそのことを感じさせず、誠実な教会生活を送られ、病気を押し最後まで奏楽奉仕をされていたお姿は心に焼き付いています。

中村健一先生の人生は「本当に、この人は正しい人だった」（ルカ23：47）としみじみと私は思っています。 現 日本基督教団神奈川教会役員



虹たつシオンの丘 株式会社ミルトス 絵はがき

中村健一兄の思い出

笹倉靖生

今、目の前に中村さんがいらっしゃると思いつつ、思い出のメモを作りますので、以下、「さん付け」で記します。

1. 超多忙な人だった

*中村さんは、下記の如く、沢山の要職を勤められ、多忙な人であったと思います。

*主要職務；お医者さん、大学の先生、教会役員、教会学校長、聖歌隊指揮者・・・。
私達の窺い知れないお医者さんや大学の先生の立場では、ほかにももっと職務を兼ねておられたと思います。

*普通の人であれば、職歴として、幾つかの職務を逐次こなして行くのですが、
中村さんは、一時にかつ継続的に、沢山のお役目を引き受けてられたのが印象的。

2. 讃美歌の歌い方

*讃美歌を歌うに際し、歌詞の内容と曲を考え併せて歌う事が大切というのが中村さんの持論であった。

*従って、心静かに流れるようにゆったりと歌う時（175；我が心は）、堂々と力強く歌う時（457；神は我が力）、リズム良く元気に歌う時（503番；春のあした、夏の真昼）などで、対照的な歌い方をされていた。

注；（ ）内は参考讃美歌の事例

*当時の歌声喫茶で、カチューシャや山男の歌などを大声でかなり立てることしか知らなかった一介のエンジニアにとっては、中村さんの讃美歌の歌い方には、成る程と感心した次第です。

3. 円満家庭の主

*夫婦喧嘩など想像も出来ない、仲睦まじきご夫妻だった。

*三名のお子様を授かり、三者三様に立派に養育された良き父親でもあった。

人徳者の父が側に居るだけで、兄弟げんかも出来ない雰囲気だったのではないでしようか。

*私のカミさん；翠にとっては、中村さんは、翠嵐高校およびHIY（ハイスクールYMCA）の先輩でした。カミさんとHIYの仲間とはいまだにお付き合いがあり、その中でも中村さんのことが話しに上るとのこと。（中村家の家庭円満の中に、何故私の名前が出るの？ というカミさんの疑問符付きですが・・・）

4. お医者さんとして

*国境なき医師団を紹介して戴き、私も支援者登録をした。

*爾来、UNICEF共々、身の丈に応じた支援を継続しているが、UNICEFに比して国境なき医師団の方が、中村さんのお仕事により近く、アジア・アフリカ新興諸国で困っている人々のお役に立っている手応えが、より強く感じられます。

*今となっては、国境なき医師団への支援をする度に、あるいは、そこからシールを送って戴く度に、中村さんを思い出す機会にもなっています。

以上、駄文失礼

現 日本基督教団神奈川教会役員